

## 2020年度第5回 外洋常任委員会 議事録

開催日；2021年1月14日（木）18:00～20:15

会議の方法 WEB 会議（Zoom）

出席者；（理事）

馬場益弘 副会長、中澤信夫 副会長、大村雅一 常務理事、平松隆 理事、  
橘田佳音利 理事、望月宣武 理事、菊池邦仁 理事、新田肇 理事、岩瀬喜貞 理事、  
安田大助 理事、中村隆夫 理事、

（委員会関係）

八木達郎 外洋計測委員会委員長、三浦信郎 レース委員会外洋小委員会委員長、  
日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長、  
船澤泰隆 国際委員会外洋小委員会委員長、服部好彦ジャパンカップ委員会委員長、  
作田智恵子 艇登録 WG 長  
鈴木一行 国際委員会外洋小委員会委員

鈴木保夫 外洋事務局長、  
寺澤寿一 JSAF 事務局長、

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で18：00より、馬場副会長の挨拶で開始した。

馬場：明けましておめでとうございます。

非常事態宣言が発令されたが、2月7日まで自粛して一緒に辛抱したい。  
オリンピックも3月から聖火リレーがあるので自粛してしっかりやっていきたい。  
大相撲が観客を入れて開催されているが、個人で対策をして7月からのオリンピック  
に臨みたい。

本日は1月24日の団体長会議に向けて活発な意見をお願いしたい。

### ①第14回全国外洋加盟団体長会議（1月24日）の議事内容、資料等の確認

- ・セールナンバー発行規則とそのガイドライン

作田艇登録 WG 長より以下の説明がなされた。

WG から3つの資料を提示する。

1つは前回の常任委員会で提示し、9月の団体長会議で検討が承認された新しいセールナンバー発行規則について理事会に提出した案を団体長会議で説明する。

2つ目の資料は現行の「外洋艇登録規則」と「セールナンバー発行規則」の違いを分かり易いように纏めたものである。当面は両方の規則を並行して運用するが将来は一本化する。

セールナンバーの管理は外洋艇登録事務局を設置して管理する。

表は、オーナーが加盟団体の会員と、JSAF のみの会員と、非会員の場合のサービスの違いを纏めたものである。

セールナンバー発行規則では外洋レースへの参加ができない案にしたがこれで良いか確認をしたい。

以上の説明に対し、以下の質疑応答がなされた。

八木：外洋レースへの参加は今まで出来ていたが参加をできなくなるとの理解か？

新田：以前海保への情報公開について、管理する側についても外洋常任で協議すると理解しているが今後協議する予定かなのか？

鈴木（保）：情報公開について、保安庁に公開することは今まで通りである。

登録情報は JSASF 規則内で処理していくことになる。

平松：非会員は外洋レースに参加できないことになっているが、現在はオープンレースに参加できる。レースへの参加は不可にするのか？

会員艇と非会員艇で参加に条件を付けることを提案する。

作田：WG の提案としてはこの通りであり、何でも OK にすると加盟団体の会員が減っていくと考えたので、あくまでも WG として常任に諮って頂く案である。

鈴木：レースは実行委員会マターで、WG からは問題提起である。なんでもレース参加はいいが、加盟団体としてはどうか。今までオープンレースへの参加制限は議論してきた。今後登録艇を増やすことにおいてこのところは重要になってくる。ガバナンスも求められてくる。

望月：艇登録のみは会員ではないことになっているが、JSAF は会員をベースにしての倫理規定の適用もなくなるし、艇登録のみの管理が及ばなくなるのではないか、会員の種別を作る方が良いのではないか、非会員の扱いにしない方が良くと思う。艇登録会員という制度にしたらい。新しいカテゴリーを作成する。

鈴木（保）：本制度作成にあたって、JSAF 登録はハードルが高いことから、会員増しが図れないので、艇の登録のみを考えた。現行の規則は加盟団体と JSAF 会費という縛りがある。方法として会費ゼロとしてもいいと考える。

望月：懲戒規程の範囲を艇にするのは如何か。

大村：大きい枠組みでセールナンバーを発行していく、直接登録していくのではなく、クルージングメンバーを拡大していくことを目的としている。次の制度として見直して頂ければ、艇数が増加すると考える。

鈴木（保）現規則は人からみている。セールナンバー規則には会員はいない。

望月：艇と人を切り分けることは問題が無いが、スタンプのようなものと考えていた。

使う人に対して懲戒が適用される。会員、非会員の比較表から疑問が起きた。表整理が必要であるのではないか、レース参加は人で艇ではない。

鈴木（保）表はオーナーが会員であるという住み分けである。

馬場：規則の第4条は新たなセールナンバーについて、お持ちのセールナンバーを登録しませんか、登録料として3,000円にする。中古艇を購入した人へ登録して頂く制度にすべきである。

八木：3,000円を毎年払わない制度にしないと、人と艇は切り離されていないように思う。

岩瀬：外洋東海ではこの制度になると会員数が減少すると思う。東海ではナンバーを持っていてもレースに出ている艇が少ないので、会員が新制度に移行していくように感じる。

作田：懸念されている事項ではあるが、反対意見も無かったので案を提案している。最後は外洋常任委員会で考えて頂きたい。

鈴木（保）高齢で会員登録を辞める人に、セールナンバーのみでも登録して欲しいとの観点から考えた。JSAFは敷居が高いので登録しない。JSAFの興味の無い人にハードルを低くして取り込むことを考えた。更新料をとらないとVHF無線局のようになる。4条の1項は新規登録艇で、そうでない艇は2項に記載されている。

橋田：JSAF会員でレースに参加している方とそうではない方もおられる。

昔会友艇登録だった人から問い合わせを受けている。昔のナンバーを再発行する人にとっては毎年更新するのは賛成。

外洋レースへの参加は差をつけ、非会員の名称を変えた方が良い。

三浦：JSAFのみ会員も外洋レースに参加できないとのことであるが、レースのマネジメント的には全日本クラスのレースで参加拒否はできない。1加盟団体のみのレースであれば自由。またレースの参加についてはセールナンバー発行規則案に参加できないことを書いた方が良く、外洋艇登録制度の第2条も変更したほうが良い。

作田：サービスの違いのレーティングの部分を確認する。

八木：JSAF会員は拒否できないとしているが、レーティングは変えられない。加盟団体主催のレースと記載すべきである。

大村：発行規則の4条の文言整理と比較表の表現を工夫してもらいたい。

作田WG長から資料3番目の現行の「外洋艇登録規則」の第4条と第11条の変更の主旨が説明され、鈴木WG委員より補足説明がなされた。

作田：現行規則第4条1項の念書は廃止し、2項の金額の変更を提案する。

11条は現在の10番以内の予約部分の変更と、特殊番号についての予約を提案する。

鈴木（保）：過去登録についてのメリット論がなされてきたが、いずれも付録的な意味合いが強かった。セールナンバー発行そのものを面白くしてメリットを持たせることを

考えた。

例えばUS セーリングのように、70000番、10000番等のような誰でも欲しがる番号に対しては、追加登録料を予め決めて予約できるようにし、特定の個人にしか価値が無い誕生日等の番号についても予約ができるようにして話題性を考えた。

予約金を1万円とし、希望者が複数の場合は抽選とする案である。

大村：現説明は、抵触する条文を抽出して審議事項として提案するということである。団体長会議で議論してJSAFの2月の理事会へ提案する。今後意見を頂いて進める。

平松：発行規則で予約があった場合とセールナンバー発行規則では次のナンバーになることは矛盾する。

作田：予約が無ければ分けている。

鈴木（保）：分かり辛いですがセールナンバー発行規則は別の規則である。

現行の規則を変更しないことで議論して作成している。

このようなことを考えると、この際にセールナンバー規則を現行規則に組み入れて変更するのが良いと感じている。会員と非会員の区別についても組み入れることで分かり易くなる。規則はシンプルにすべきである。例えば現行規則の細則2の情報公開の部分でも新規則との間にお祖語が生じている。

運用する際にシンプルにしたいことから、現行規則と合体するべきと考える。

大村：加盟団体へは入り口が異なることで走らせるが、将来は合体することを検討する。

4条の言い回しを工夫して考える。

鈴木（保）：同じナンバーを対象としているのに規則が2つあることに疑問を感じてきた。

望月：分かり辛くなる。どの規則でセールナンバーが発行されているか不明になる。できれば整理して統合させるべきである。

鈴木（保）：将来合体するのであれば、4月1日運用に間に合わなくても、2か月位遅れてもいいから合体案を検討して発行した方が良いと思うがどのように思うか？

望月：人と艇の住み分けは？

鈴木（保）：現行規則はオーナーが会員であることが条件だが、その部分を区別すれば良い。

望月：オーナーは連盟会員でないといけないと思うが、制度設計は別である。

鈴木（保）：後日合体させるのであれば今やった方が良く考える。運用してからでは難しいと考える。

中村（隆）：大変になるが運用し始めてからでもできなくはない。

大村：外から見た場合は別の流れを重視したい。将来に合体すべきである。地方へ説明することも困難である。合体した規則は分かり辛い。

中村：規則構造と中身を理解していないが、登録する人が全ての規則を理解して登録するかは別である。

大村：新規則を動かして、後日合体していくことにしたい、外洋常任委員会として打ち出したいと考えている。2月理事会承認に向けて、団体長会議で説明して動かしたい。

望月：名簿は別にするのか。

作田：運用としては一本化で管理する。公開する際には規則別で提示したい。

登録記載も簡単になっている。セールナンバーは一元管理とする。

菊池：新制度を上位として進めていけば良いのではないか。

作田：指摘部分を訂正して団体長会議に提案する。

運用については、受付や発行業務のJSAF窓口は外部委託する。

常任委員会内に設置して運用していく。

大村：外洋艇登録事務局に業務委託することになる。新年度予算に考慮している。意見質問を出していただき、WGで検討する。

#### ・2024 オリンピック、2021 世界選手権等について

鈴木（一）：12月からWSと連絡が取れていないので報告ができないが、昨年世界選手権に申し込料を支払った結果、日本は予選を免除することになった。

本体のダブルハンドのレースが決まっていない。

1月24日の団体長会議に間に合うように情報を収集する。

WSのオセアニアコミッティーに船澤氏が承認される予定。

大村：2024のパリオリンピックはIOCが外洋を含めて10艇種を正式決定した。

#### ・各専門委員会・小委員会からの報告 その他

##### ・ルール委員会外洋規則小委員会

日下部：団体長会議ではJSAF規定の一部改訂を紹介する。外洋系に関連するところはアンダーラインのところである。スタート、フィニッシュ時の艇体に関するところが変更になっている。

鈴木（一）：船体の一部が何であるかのQ&Aを団体長会議に向けて作って頂きたい。

日下部：2021年度の委員会の事業計画としては、パリオリンピックに貢献できる動きをしたい。

##### ・計測委員会

八木：団体長会議ではIRCの変更点を説明する。事業計画に大きな変更点はないが、纏めておく。

##### ・国際委員会外洋小委員会

船澤：MIXダブルに向けて5月に予選を兼ねた大会を計画している。

パリオリンピックの外洋レースの選考を含んだ内容で参加資格を決めていきたい。

馬場：男女だけではなく、男のダブルも参加資格にしたらどうか。

パリまであと3年なので、そこも頭に入れて考えてもらいたい。

平松：意見には賛成するが最終的には男女なので、しっかりと資格条件を検討してもらいたい。

・キールボート委員会

中澤：NYYCのインビテーションショナルカップの連盟代表チームは、船澤さんがキャプテンを務める「サマーガールスコードロンチーム」に決定した。

## ②艇・クルー・マッチング、ダブルハンド・レース振興、法制度、安全関係等の調査・検討チームについて

大村：艇・クルー・マッチングについては、広報委員会においてHPに乗せることを研究している。

日下部：泊地関係等クルージング艇に役立つ情報を提供するプラットフォームを作る提案をしたい。

大村：メンバーを含めて具体的に提案して頂きたい。

## ③各地域の報告（2021年レース、イベント開催動向等）

大村：合同委員会をWEBで行うが、まだ参加者が少ないので参加を呼び掛けて頂きたい。

## ④その他

大村：団体長会議は添付資料の通り、WEBのみで1月24日（日）13：30から行う。

2021年度の事業計画と予算は資料の通り要求している。

ジャパンカップの予算の実施予算については別となっている。

鈴木（保）：団体長会議が終了次第、事務局長会議を行うが、議事の内容としてはセールナンバー発行規則の新設に伴う団体事務局の艇登録事務に関わる部分等を説明する。

最後に中澤副会長の「コロナでヨットどころではない雰囲気になってしまったが、ゴールデンウィークにレースができれば良いと考えている。」

とのあいさつで閉会となった。